

10月17日  
報告

## 「第14回 中国人受難者を追悼し 平和と友好を祈念する集い」報告

村中 信行

今年も10月の第三日曜日となる17日、「中国人受難者を追悼し平和と友好を祈念する集い」が安芸太田町安野発電所わきの小高い丘に建てられた記念碑前で行なわれました。昨年から続く新型コロナウイルスの猛威は8月になって恐ろしいほどの勢いを増している、前日の「集会」も含め今回の「集い」の開催を前に暗い影を落としていましたが、9月に入ってから徐々におさまりはじめました。9月の末には緊急事態宣言やまん延防止措置が解除され、ようやく「集会」ならびに「集い」の開催も大丈夫だろうと思える状況になってきました。とは言え、参加の呼びかけをあまり広くすることもできないので、これまでの関係者周辺に限らざるを得ません。また昨年に続き今回も中国からの受難者(被害者)、遺族の来日は見送らざるを得ませんでした。ただ今年から一連の行事に参加することになった中国人留学生の屈帥帥(くつすいすい)さんが「集会」「集い」「追悼法要」の様子をビデオで撮影し、中国でもネット上で見ることができるようにするということになりました。

テント張りなど会場設営はここ数年、斎藤さんや小田さんや田島さんなど幾人かの地元の人たちの協力で大変スムーズにできるようになってきており、心配された天気もときおり雨のぱらつくときもあったけれど晴れ間が出るときもあるなど大きく崩れることはなく、おおよそ無事に「集い」は進行しました。

13時30分より、例年通り岡原美知子さんの司会で「集い」が始まり、まず足立修一弁護士が主催者として挨拶され、来賓の挨拶となりました。中国人受難者・遺族のメッセージが読み上げられ、



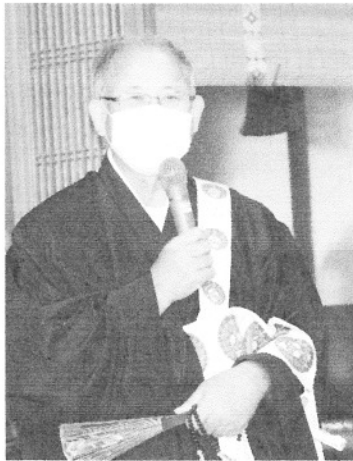
安芸太田町長のメッセージが続きます。来賓として参加予定だった安芸太田町長の橋本博明氏ですが、どうしても町長として対応しなければならない急用ができたとのことで、急遽欠席となったことは残念でした。それでも前の町長から引き続き「集い」へ参加されていることに、この地における歴史や日本と中国とのこれからへの思いを感じることができると思います。そして善福寺住職・藤井慧心氏、広教組委員長・頼信直枝氏、中国駐大阪総領事館総領事・薛剣氏(メッセージ)と続きました。

ところで足立弁護士は、この夏に勝利した「黒い雨」裁判の弁護団にも参加されています。前日の「集会」の中で、足立弁護士から、この「黒い雨」裁判からすれば、安野に強制連行された中国人は広島市内で直接被爆した被爆者だけでなく収容所に残っていた人達も含めて全員が被爆者と言える、といった内容の発言がありました。ふと安野の「戦後」はまだまだ終わってないのかしら、と思わされるひと言だったように思います。もちろん終わっていないのは安野の「戦後」だけではなく、いろいろなものが終わっていないと思うのですが。

また他に、記念碑を施工された吉村石材店の吉村政則さんが新たに石材店を引き継ぐ清本裕通さんを伴って列席されました。吉村石材店も代替わりということですが、代替わりしてもこれまでと変わらぬおつきあいを期待したいです。

恒例の竹内ふみのさんが演奏する二胡の音色が安野の山々に響き渡る中、参加者全員が記念碑に献花して今年の「集い」も閉会しました。

「集い」が終了した後、場所を善福寺に移して、これも恒例の「追悼法要」が行なわれました。本堂左手前には藤井住職が天津にある「在日殉難烈士・勞工紀念館」を訪問した際の写真がパネル展示してあります。「追悼法要」と言っても、これは



藤井住職の人柄にもよるのかも知れませんが、ちょっとしたユーモアを交えたお話を聞いて少しばかりリラックスした気持ちになって本堂に座ることができます。今回のお

話にはお寺の隣の駐車場の一角に「合葬墓」を新しく作られたということがありました。これは後継者がいなくなりお墓の守り手がいなくなりつつある現状に対して、宗派を問わず誰でも入れるという新しいお墓の形らしいのですが、このお墓の構想そのものは先々代の住職のお考えだったけれど、当時は経済的に作ることが難しかったものをこの度かなえることができたそうです。この先々代が収容所で亡くなった中国人五人のお骨を預かり、先代がそれを中国へ遺骨送還し、今のご住職は記念碑の揮毫をされ、追悼法要を継続して下さるなど、善福寺は安野の中国人強制連行との巡り合わせの深いお寺です。



法要に参加した皆が、藤井住職の「佛説阿弥陀経」の読経とともに中国式のお線香、日本式のお香をあげた後、今では当時のことを証言できる最後の人である栗栖薫さんのお話を聞いて「追悼法要」も終わりました。以前は証言者の一人である谷キヨコさんも「集い」「法要」に参加し続けていましたが、ここ数年は見かけることがなくなりました。さすがに高齢になられて施設に入所されているというように聞きます。

この頃には日暮れもそろそろ近づき、結構冷え始めてきました。前日まではこの季節にしては暖かい日が続いていて、半袖でも間に合っていたものが、「集い」の開かれたこの日を境に一段と時間が進んだように思えたのでした。

さて広島市民グループが安野の中国人強制連行問題に取り組み始めてからも相当な時間が経過しました。その間にいろいろなところで、いろいろな組織で、人の入れ替わりや代替わり、また亡くなられた方もいますが、それでもその入れ替わった人や新しく参加した人、また地元の人たちとのつながり、協力を得ながら今年の「集い」も開催することができたと思います。そうして、この安野の歴史がさらに先まで繋がればと願うのです。